

単元全体を見通して1時間、1時間を大切にしたい授業づくり

10月21日(金)大妻女子大学教授樺山敏郎先生を招聘し、中学校国語科授業づくり研修会を開催しました。講義の始めに「たかが1時間(50分)、されど1時間(50分)、先生方は、情熱をもって授業をされていますか?」と問われました。

単元を見通し、「自主性」と「主体性」の違いを意識することが重要です。子供たちが主体的に学び、育成すべき資質・能力を身に付けるためにも単元全体を見通し、1時間、1時間を大切にしたい授業づくりをしていきましょう。



「自主」の意味

「やるべきこと」は明確になっていて、その行動を人に言われる前に率先して自らやること。

「主体」の意味

何をやるか決まっていなくても、自分で考え判断して行動すること。

主体的な人は、「目的は何か」を明確にし、それを満たすために何をするかを自分で考え、ある面ではリスクを理解し行動できる。

外発的動機付け > 内発的動機付け
やらなければならない = 義務感

外発的動機付け < 内発的動機付け
何とかしてやってみたい = 向上心・意欲

“自主的”な学びは必要。それ以上に、今後の未来の担い手を育てる教育には、“主体的”な学びが重要。それを考えていくと、個別最適な学びへつながる。

主体的に学ぶための授業づくりの提案



① 「スクール形式でなくてはならぬ」からの脱却

【例】・口の字型 ・対立型 ・コの字型 ・囲み型など

○1問1答の授業から脱却し、子供同士をつなぐ授業にしていく。

○授業は先生のための場ではなく、子供と創る場なので、子供たちに学習の場を選択させてもよい。



② learning mountainを用いてゴールの明確化

○教員が指示をするのではなく、生徒が自分で主体的に動く授業にする。

○learning mountainを示し、ゴールに向かって進んでいく過程を明確にする。

○1つ1つのポイントをシンプルに分かりやすく可視化することで、子どもがゴールに向かって主体的に学びを進めることができるようにする。



【例】『枕草子・徒然草』



③ 活動(ワークや作業)を個別最適化

○鉛筆で書きたい生徒もいればPCで打ちたい生徒もいる。これからは選択の時代になっていく。

○授業の中でノート、ペーパーベースのワークシート、コンピュータベースのワークシートの中から自分で学習しやすいものを選択させる。

○生徒の実態を把握し、困り感を抱きそうな場面を想定し、支援方法を考え設定していく。



④ 記述する際には条件を提示

○3Z(時間・字数・条件)を意識→詳細は研修パッケージ(中学校国語)を参照。

○必要となる条件を評価基準として示すことで、生徒と評価の基準を共有することにつながる。



研修パッケージ
QRコードはこちら



⑤ 教科書を超えて多読へ

○教科書以外の教材も効果的に用いる。

【例】教科書の「徒然草」の本文を読んだだけでは理解は深まらないが、「徒然草」の章段をたくさん読むことで「徒然草」のよさが分かるようになる。